

6.16・6.21スト決定

銚子駅

館山駅

日刊
動労千葉

1988.6.7
No.2831

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二・〇七

支部代表者会議開催%

中野委員長あいさつ

五月の三回にわたるわれわれの反撃のたたかいは、予測以上の成果をあげている。動労千葉は、今後も続くであろう当局の不当な攻撃に対して、長期波状ストライキを配置していく。六月四日、本部執行委員会は、「六月闘争（第三波、第四波ストライキを軸とした組織強化、総決起・総行動）」を決定した。われわれは、最もやりやすい場所、最もやりやすい時に、ストライキを打てる。ストライキで当局をギリギリ舞させてやろう。この間のわれわれのたたかいは、各方面に大きな波紋を投げかけている。JRは、「黒字決算」というが、その内実はかなり苦しいものである。いま、会社幹部の間では、労務政策最優先について論議が巻き起こり、また「鉄道労連」の革マル支配に危機感を抱く声が大きくなってきている。同時に「鉄道労連」内部では、東鉄労青婦部事務局長の統制処分問題で「旧鉄労執行部」が「辞任」というところまでできており、いまや鉄道労連は崩壊の一端をたどっているのだ。

われわれのこの間の闘いがこれらを大きく揺り動かしているのだ。つまり、分割・民営化の矛盾を大きく突き動かしているということだ。まさに、われわれはいま「機」を得ている。国労の現場の労働者は、国労中央の「分割・民営化反対の旗を降ろす方針」に対し、絶対反対の怒りの声をあげてたたかっている。

われわれのたたかいは、国労の労働者を始めとして、全国にたたかいと支援の輪を拡大している。夏季物品販売運動の前進もそれを物語っている。

六月闘争の勝利にむけ、全支部的な高揚をつくりだそう。

布施書記長基調提起

三回のストライキに五百名の組合員が決起した。このことは敵に大打撃を与えている。動労千葉七五〇の団結の強さが示しぬいたのだ。

敵はいま、国鉄労働運動を完全に圧殺し、労働運動を戦争に協力できる体制＝産業報国会化させることに全体重をかけている。亀戸駅ストライキに対しての四百を超える警察・権力の弾圧がそれを意味している。

動労千葉のたたかいは、本質を突いている。さらに、このたたかいを拡大させよう！今後のたたかいは、特に六月闘争にむけて各支部と営業協議会は、「いつでもストライキの打てる態勢」の構築のためにさらに組織を強化することが最重要課題だ。

六・一六、六・二二ストライキを全力をあげてたたかおう！

6/16

銚子駅

ストライキ

17じ30分集合

6/21

館山駅

ストライキ

17じ30分集合